



日本聖公会東京教区
各教会・礼拝堂・教役者・信徒の皆さま

新型コロナウイルス感染症対応のお願い（8）

2020年4月7日

東京教区主教
フランシスコ・ザビエル高橋宏幸

既に報道機関を通して伝えられておりますように、殊に東京ではここ数日間だけでも一層の感染拡大を見ており、その経路不明の数も相当数に昇っております。昨日東京都医師会から「医療的緊急事態宣言」が、また本日夕刻、政府より「緊急事態宣言」が出される予定です。その中、種々の機関、施設に対して、「休止要請」「感染予防対策への協力要請」が一段と強調されています。

これまでの「教書」でも触れてまいりましたが、この度は会合を極力自粛することを強く要請致します。なお、どうしても開催が必要な場合には、改めてその緊急性を熟慮された上で「三密の厳守」はもちろんです。極力「インターネット等の利用による開催」「メールによる稟議」「SNSの活用」等を以てなされるよう指示を致します。なお、その際に必要な費用が生じる場合は、このような緊急時に付き補助を積極的に考えたいと思いますので、教区宛ご遠慮なくご相談ください。

未だ先が見えず、一層の深刻さが増している中、今のところ私たちは慣れ親しんできた形での公禱を捧げることができません。しかし、このような緊急時、非常時であるからこそ、また信仰が問われている時であるからこそ、私たちは信仰と祈りによって互いに結ばれていることを実感し、その確信を心に深く刻みたいと思います。

感染症に罹った方がたの一日も早い回復と医療従事者のお働き、生活上の不安、困難を余儀なくされている方がたへの支え、ご逝去された方々の魂の平安と悲しみの内にある方がたへの慰め、この危機の収束を切にお祈り致します。また、その他すべての人々のため、殊にご高齢の方がた、教会学校・日曜学校に来られない子どもたち、孤独や孤立を余儀なくされている方がたの不安が和らげられ、一人一人の命が守られますように、そして、日ごろ教区、教会・礼拝堂での種々の奉仕に携わっておられる方がたのためにもお祈り致します。

引き続き、不要な外出を避けること、手洗等の感染防止策を引き続き継続されることを切にお願い致します。



東京教区では、復活日（4月12日）正午には、お昼時の忙しい時間ですが、一旦手を止め、心と言葉を合わせて、主イエス・キリストが授けてくださった「主の祈り」をそれぞれが居られる場所で、心を込めて捧げていただきたいと思います。私自身も祈ります。皆さまもご一緒に祈りましょう。どうぞ、他の方々にも祈りに加わってくださるよう、お知らせとお勧めをお願い申し上げます。

「復活させられた方であるキリスト・イエスが、神の右に座っていて、わたしたちのために執り成してくださるのです」
(ローマの信徒への手紙 8:34)

イエス様が十字架の上で息を引き取られた時、弟子たちやマグダラのマリアはじめ婦人たちは計り知れない喪失感、深い悲しみ、心を引き裂かれるような思い、深い後悔の念、一人真っ暗闇に放り出されたような恐れに襲われ、苛まれました。しかし、それらすべてはイエス様の甦りによって打ち崩されました。その甦りの力と恵みを信じ、それに与るようと、イエス様は、今、この時に、この場で、私たちが甦りの力に与ることを望み、待ち続けておられます。世に来られ、甦られたキリストを賛美致します。